

ひょうごビジョン2050 (案)

兵庫県

目次

第1部 基本事項

1	ビジョンの役割	・・・	1
2	社会変化の潮流	・・・	2
3	大切にしたい強み	・・・	3
4	ビジョンの基調	・・・	4

第2部 めざす姿

<2050年の兵庫の姿>	『躍動する兵庫』	・・・	5
<5つのめざす社会>	I 自分らしく生きられる社会	・・・	6
	II 新しいことに挑戦できる社会	・・・	9
	III 誰も取り残されない社会	・・・	12
	IV 自立した経済が息づく社会	・・・	15
	V 地球の持続を先導する社会	・・・	18

第3部 実現に向けて

1	基本姿勢	・・・	21
2	動かす仕組み	・・・	22
	《参考》9つの地域ビジョン	・・・	23

ビジョンの必要性

- 社会が大きく変化中、コロナ禍で様々な課題が浮き彫りに
- 兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが今求められている

基本的な性格

- 県民と共になりたい姿を描くビジョン
- 県民が主役になり、地域から取り組むビジョン
- 変化を生み出し、成長するビジョン

展望年次

- 私たちの子や孫が生きる30年先の2050年頃のなりたい姿を描く

県政上の位置づけ

- 県が進める政策の羅針盤として運用

全県と地域

- 全県ビジョンと一体的に、9つの地域ごとの地域ビジョンを策定

(1) 新しいビジョンの必要性

大きな社会変化により先の見通しがますます難しくなっています。コロナ禍は社会の様々な課題を浮き彫りにしました。これから私たちはどこに向かって進んでいけばよいのでしょうか。今後の兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが今求められています。

(2) 基本的な性格

① 県民と共になりたい姿を描くビジョン

未来は私たちの手で創るものです。現在の延長線上に予測される未来像ではなく、なりたい姿=理想の将来像を提示するのがビジョンの役割です。

新しいビジョンが、県民が共有する望ましい社会の姿を示すものとなるよう、一人でも多くの県民の声を集めることを大切にして取りまとめました。

② 県民が主役になり、地域から取り組むビジョン

多様な主体が共に実現をめざして取組を進めるビジョンをめざします。主役は一人ひとりの県民であり、ビジョンに共感し、兵庫に関わるすべての人々です。

個性豊かな多様な地域からなる兵庫。決して一様ではない、それぞれの地域のめざす姿の実現に向けて、地域から主体的に取組を進めることが大切です。

(3) 変化を生み出し、成長するビジョン

作って終わりではなく、成長し続けるビジョンをめざします。問題は未来のために今何をするか。ビジョンを具体的な行動につなげることが大切です。ビジョンの実現に向けたプログラムや行動を生み出す仕掛けをつくり、見直し等にも柔軟に対応します。

(4) 展望年次

理想の実現には長い時間がかかります。私たちの子や孫が生きる社会をより良いものにするために今後何をすべきかを考える拠り所とするため、一世代後の30年先、2050年頃のなりたい姿を描きます。

(5) 県政上の位置づけ

このビジョンは県政の基本指針となるものです。

計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、県が進める政策の羅針盤として運用していきます。

(6) 全県ビジョンと地域ビジョン

兵庫県の強みは地域の多様性です。この強みに磨きをかけるため、県全体の骨太な将来像を提示する「全県ビジョン」と一体的に、9つの地域ごとの将来像と行動目標を示す「地域ビジョン」を策定し、各地域の個性を伸ばす新しい取組につなげます。

2 社会変化の潮流

2050年に向けて考えられる6つの大きな社会変化の潮流

1 人口減少・超高齢化

- 減る人口
- 大都市への人口集中
- 人口の高齢化、伸びる寿命

⇒ 人口が減っても豊かな兵庫をつくる

2 地球からの警鐘

- 気候変動
- 頻発する災害
- 感染症の流行
- 資源の枯渇

⇒ 持続可能な社会づくりを加速させる

3 テクノロジーの進化

- 未来を変えるテクノロジー
- デジタル化する社会

⇒ テクノロジーを暮らしの向上に生かす

4 世界の成長と一体化

- 人口も経済も大きくなる世界
- つながり合い一つになる世界

⇒ 世界とのつながりを地域の活力源に

5 経済構造の変容

- 経済の「非物質化」
- 富の集中と格差の拡大

⇒ 産業を変革し、社会の連帯を取り戻す

6 価値観と行動の変化

- 持続可能性重視
- 所有から利用へ
- 固定から流動へ
- 画一から多様へ

⇒ 新しい価値観・行動様式を根付かせる

< 6つの大潮流 >

今後の社会変化の潮流は大きく6つ考えられます。

1 人口減少・超高齢化

本県の人口は長期的に減り続ける見込みです。その中で人口の偏在化が進み、県民の寿命がさらに伸びて高齢化も進みます。人口減少=衰退のステレオタイプの発想を改め、人口が減少する中でも質の高い豊かな暮らしが営まれる兵庫をつくるのが大切です。

2 地球からの警鐘

地球全体が暑くなり、異常気象の常態化など社会に後戻りのできない変化をもたらすおそれがあります。次の世代によりよい環境を引き継ぐためにも、災害や感染症から身を守るためにも、地球からの警鐘を受け止め、直ちに行動に移すのが大切です。

3 テクノロジーの進化

これからもテクノロジーは、空間・時間・身体の制約を取り除き、私たちの暮らしや社会を大きく変えていくでしょう。新しいテクノロジーのリスクにも配慮しながら、その可能性を豊かな暮らしやより良い社会の実現に活かしていくのが大切です。

4 世界の成長と一体化

世界はアジア、アフリカを中心に今後も成長が続く見込みです。インターネットで世界は一つに結ばれました。古くから海外に開かれた窓として発展してきた兵庫だからこそ、世界との交流を深め、そのつながりを地域づくりの原動力にしていくのが大切です。

5 経済構造の変容

価値の源泉が工場設備などの有形資産から人的資本などの無形資産に移る、経済の「非物質化」が進み、人的投資が企業の将来を左右する時代になります。こうした変化に対応して産業構造の変革を進め、公正で持続可能な経済社会をつくっていくのが大切です。

6 価値観と行動の変化

行き過ぎた資本主義への反動やICTの普及を背景に持続可能性重視、所有から利用へ、固定から流動へ、画一から多様へといった価値観と行動の変化が進んでいます。また、コロナ禍ではつながりの重要性やこれまでの働き方の限界を再認識しました。新たな価値観や行動様式を根付かせ、ポストコロナ時代の新しい豊かさが広がる地域をつくっていくのが大切です。

3 大切にしたい強み

五国の個性

兵庫は、気候風土、歴史文化の異なる旧五国が一つになった県

但馬 中国山地の北、日本海に面し積雪が多い。県最高峰氷ノ山等の山岳、変化に富む海岸線など自然美を誇り、空にはコウノトリが舞う。

播磨 大河が流れる肥沃な播磨平野、豊かな海産物を誇る播磨灘、日本初の世界文化遺産姫路城を擁し、県土の4割を占める広大な地域。

淡路 国生みの島。本州と四国・九州をつなぐ水路の要衝。豊富な日照、温暖な気候で古来より「御食国」と称され、今でも農漁業が盛ん。

丹波 昼夜の気温差、粘土質の豊かな土壌を活かした丹波ブランドの農産物を産出。「都会に近い田舎」として近年移住者に人気。

摂津 古くから世界に開かれた港町神戸を中心に都市文化が花開く。今も多くの外国人が住まう。市街地が広がり県人口の6割が集中。

進取の気風

- 海外の文化を先駆けて受容してきた地域
- チャレンジ精神に富む人材・企業を輩出



摂州神戸海岸繁栄之図

培ってきた地力

- 高度なものづくり産業
- 多彩な地場産業
- 世界有数の科学技術基盤
- 食の宝庫
- 防災先進県



皮革 素麺 線香
トップシェアを誇る地場産品



個性豊かな食材



SPring-8とSACLA

(1) 五国の個性

兵庫は、気候風土、歴史文化の異なる摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧五国が一つになった県です。今に息づく五国の個性が兵庫県の強みです。

多様な個性を持つ地域が関わり合い、補完し合って発展してきた県だからこそ、これからも県内での活発な交流が、兵庫の活力の源泉となるでしょう。

(2) 進取の気風

兵庫には古くは大輪田泊、中世以降は兵庫津と呼ばれる港があり、中国、朝鮮との交易の拠点として栄えました。鎖国下も国内交易の拠点として繁栄し、1868年の神戸開港後は日本を代表する国際貿易港として発展してきました。海外の文化を全国に先駆けて進んで受け入れてきた「進取の気風」が兵庫県の特徴です。

こうした地域性が、伝統的な価値観や固定観念に縛られずに新しい課題に挑むチャレンジ精神や柔軟性に富む人材、企業を育み、世界へ送り出してきました。

(3) 培ってきた地力

①高度なものづくり産業

阪神・播磨臨海部を中心に基礎素材型や加工組立型の高度な製造業が分厚く集積しています。

②多彩な地場産業

清酒、素麺、皮革、鞆、線香、釣針など全国トップシェアを誇る産業や、ケミカルシューズ、播州織、三木金物、淡路瓦など著名な産地があり、約40もの多彩な地場産業が県内各地に根付いています。

③世界有数の科学技術基盤

スーパーコンピュータ「富岳」と大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLAという世界有数の先端科学技術基盤を擁し、計算科学と光化学を中心にした知的創造拠点が形成されています。

④食の宝庫

北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に面する兵庫。気候風土の異なる多彩な土地で育まれた神戸ビーフ・但馬牛、山田錦、丹波黒、たまねぎ、シラス、ホタルイカ、ノリなど個性豊かな食材は、兵庫発のブランドとして国内外で高く評価されています。

⑤防災先進県

阪神・淡路大震災と、その後の度重なる災害を経験し、兵庫は安全で豊かなまちへと進化を続けてきました。兵庫が培ってきた防災・減災の知恵と技術は世界中の安全を守るために生かされています。

4 ビジョンの基調

県民の期待

- 多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を
- 自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を
- 「競争」よりも共に歩む「包摂」を
- 「効率」よりも持続する「循環」を

キーワード 「開放性」

- 県民の想いに共通するのは、「開放性」の高い社会への強い願い
- 「開放性」は兵庫ならではの強みであり、今後も伸ばすべき特性
- 今求められているのは「開放性」を徹底した社会の姿を示すこと

<県民の期待>

多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を

社会が変化し、これまでとは異なる価値観が生まれています。新しい価値観を受容し、認め合う中から、時代の変化に柔軟に対応できる社会をつくっていく必要があります。新しい考え方やテクノロジーを取り込み、どんな課題に対しても、常識にとらわれず、創造的に乗り越えていける地域が求められています。

自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を

コロナ禍でこれまでとは違う暮らし方、働き方があることに多くの人気が付きました。人生の可能性を広げるために、様々な制約を取り払い、もっといろんな生き方ができる社会をつくっていく必要があります。多様な選択肢の中から自分なりの道を選び取っていく自由度の高い社会が求められています。

「競争」よりも共に歩む「包摂」を

行き過ぎた個人主義、能力主義の中で格差が広がり孤立が生まれています。共感を生む道具としてICTを生かしながら、助けが必要な人に寄り添い、伴走する社会をつくっていく必要があります。人と人との確かなつながりが生まれ、誰も取り残されない、すべての人を包摂する地域が求められています。

「効率」よりも持続する「循環」を

地球の危機に向き合い、持続可能な社会づくりを加速させる必要があります。都市と多自然地域が共存する兵庫は、その実践を行う絶好の場所です。食料・エネルギーの自給、お金とモノが域内で巡るローカル経済圏の形成などを通じて、循環型の暮らしと経済を地域に根付かせることが求められています。

<キーワードは「開放性」>

こうした県民の想いに共通するのは、今よりも「開放性」の高い社会をつくりたいという強い願いです。

物理的にも精神的にも「壁」のない社会。属性に関わらず一人ひとりの可能性が開ける社会。価値観の違いを超えてつながり合う、開かれた社会。そうした社会の姿を描き出すビジョンが求められています。

「開放性」は兵庫本来の強みでもあります。交流の結節点として栄え、進取の気性を持つ人材を生み出してきた兵庫ならではの物語を、これからも紡いでいけるよう、開放性を徹底した先にある兵庫の姿を示す。その実現に向けてオープンな姿勢で取り組む。「開放性」が根底に流れるビジョンを描きます。

2050年の兵庫の姿

誰もが希望を持って
生きられる

一人ひとりの
可能性が広がる

『躍動する兵庫』

I 自分らしく生きられる社会

- ① 自由になる働き方
- ② 居場所のある社会
- ③ 世界へ広がる交流

II 新しいことに挑戦できる社会

- ④ みんなが学び続ける社会
- ⑤ わきあがる挑戦
- ⑥ 新しい文化の創造

III 誰も取り残されない社会

- ⑦ みんなが生きやすい地域
- ⑧ 安心して子育てできる社会
- ⑨ 安心して長生きできる社会

IV 自立した経済が息づく社会

- ⑩ 循環する地域経済
- ⑪ 進化する御食国
- ⑫ 活動を支える確かな基盤

V 地球の持続を先導する社会

- ⑬ カーボンニュートラルな暮らし
- ⑭ 分散して豊かに暮らす
- ⑮ 地球の持続に貢献する産業

<2050年の兵庫の姿>

2050年頃までに実現をめざす兵庫のなりたい姿は、「誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」です。

「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを車の両輪にして「躍動する兵庫」を実現していきます。

<5つのめざす社会>

I 自分らしく生きられる社会

新しい価値観が広がり、より自由な暮らし方、働き方を求める人が増えています。多様な選択肢の中から自分の意思で未来を選び取れる社会になっています。みんなに居場所と役割がある地域、国内外との活発な交流が行われる地域になっています。

II 新しいことに挑戦できる社会

寿命が伸び、何を大切に生きていくのかを多くの人が自問するようになります。いろいろな経験ができ、一人ひとり異なる人生の道筋を描ける社会になります。教育の形が変わり、生涯を通じて学び続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。

III 誰も取り残されない社会

どんなにテクノロジーが進化しても、最後に大事になるのは、人とのつながりであり、人の温かみです。過剰な効率化や競争の中で見過ごされてきたつながりの大切さが再認識され、誰も取り残されず、最期まで安心して暮らせる社会になっています。

IV 自立した経済が息づく社会

世界を覆うデジタル経済、広がるシェアリングエコノミー（共有経済）。そうした中で持続可能な経済社会をつくる取組が進められています。地域に根付くものづくり産業を中心に、食、農、エネルギー、文化など生活に密着した産業が成長し、地域の中でお金が循環する自立的な経済圏が形成されています。

V 地球の持続を先導する社会

資源循環やエネルギー自立の取組が進められ、カーボンニュートラル（炭素中立）な暮らしが根付いています。自然に囲まれた生活を志向する人が増え、兵庫の多様な地域性を活かした豊かな暮らしが各地で営まれています。人類の持続可能性を高める産業が県内に集積し、新しい基幹産業となっています。

「いろんな働き方を自分の意思で選ぶことができ、 自分なりの役割を見出せる社会」

例えば

- 自分らしい働き方を追求する人が増える
- ライフスタイルに合わせて働く場所と時間を選べる
- 複数の仕事を組み合わせて生きる人が増える
- 場所や組織にとらわれない生き方が広がる
- 複数の場で活躍する人が増え、社会の中に自分の役割がある

(1) めざす姿

- 自分らしい働き方を追求する人が増えています。稼ぐことよりも好きなことを大切にすることが増え、仕事にやりがい強く求めるようになっていきます。好きなことを強みに自分なりの活動をする人が、社会に価値を生み出しています。
- 社会のデジタル化に伴い、働き方の自由度が高まっています。仕事内容やライフスタイルに合わせて働く場所と時間を自由に選べる働き方が主流になり、仕事の生産性と生活満足度が共に高まっています。雇用形態による不合理な待遇差もありません。
- 雇用が流動化し、終身雇用、年功序列のサラリーマン社会を生きる人は少数派になっています。組織に属さず、個人事業主として生きていく人が増え、人それぞれに複数の仕事を組み合わせて経済的な自立をめざす姿が広がっています。セーフティネットや職業訓練の仕組みが整い、安心して暮らせます。
- 仕事が住む場所を決める時代は終わり、人生のステージに応じて住む場所を変える暮らし方が広がっています。場所や組織にとらわれないことなく、旅するように生きる人が増えています。

- ボランティア活動や地域活動など仕事以外に複数の場で活躍する人が増えています。誰もが社会の中に自分なりの役割を見出し、時間を使い分けながら、それぞれの場で誇りを持って活動しています。

(2) 取組の方向性

- 多様な働き方の推進（テレワークや副業の一般化、働く時間と場所の自由化、所定労働時間の短縮、週休3日制の導入、サバティカル休暇（使途に制限のない職務を離れた長期休暇）の導入等）
- あらゆる業種におけるサテライトオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースの利用拡大
- フリーランスとして安心して働ける労働環境の整備
- 不本意な非正規雇用者等の就業機会の創出

「人生100年時代」を先取りする

人の寿命は今後も伸び「人生100年時代」に近づきます。70代でも働く人が増える一方、手持ちのスキルで生きていくのが難しくなり、絶えざる学び直しが必要になります。教育⇒仕事⇒引退の3ステージの人生は崩れ、学びを繰り返し、仕事は複数の選択肢を持つことが大切になります。終身雇用モデルから脱却し、教育やキャリア形成のあり方を見直す必要があります。

「みんなに人とつながれる居場所があり、 孤独を感じないで暮らせる社会」

例えば

- 人とつながれる居場所が地域にある
- 共同生活のスタイルが広がり、孤独を感じずに暮らせる
- 共通の趣味や関心で結ばれた多様なコミュニティが広がる
- 属性を超える活発な交流が地域を越えて広がる
- 多様な非営利組織が住民による自治の拠り所に

(1) めざす姿

- 自宅や職場、学校だけでなく、緩やかに人とつながれる心地良い居場所（サードプレイス）が身近な地域にあり、気の向くままに訪れても誰かがいて、同じ時間を過ごせます。
- 地域に様々な集い場があり、遠くの家族、友人とも仮想空間で気軽に会えます。共同生活のライフスタイルが広がり、シェアハウスやグループホームでつながりを感じながら楽しく暮らす人が増えています。近くに身寄りのない单身者も、人とつながり、孤独を感じずに暮らしています。
- 共通の趣味や関心事、悩み事などで結ばれた多様なコミュニティが広がっています。コミュニティの存在が可視化され、人々はリアルに、あるいはバーチャルにそれらのコミュニティに関わり、居場所と役割を見出しています。地域をより良い場所にするための取組に多くの人々が参加しています。
- 属性を超えた活発な交流が地域を越えて広がっています。多様な人々との交流とそこから生まれる温かい人間関係が暮らしの質を高めています。
- 地域自治組織やスポーツクラブ、NPOなど多様な

非営利組織が、人が集まり、それぞれの人がやりたいことをやる居場所になっています。それらが地域の課題に自主的に取り組む開かれた活動の拠点となり、住民による自治の拠り所となっています。

(2) 取組の方向性

- 好きな居場所を自由に選べる多様な居場所づくり
- 共同居住型賃貸住宅（シェアハウス）の整備促進
- 公民館など地域の拠点施設の再生・活用
- 多様な層の地域運営組織の再構築と運営の見える化
- 社会教育士など地域のファシリテート人材の育成
- 身近な生涯学習の場づくり（サイエンスカフェ等）
- 孤独・孤立対策の強化

「社会的孤立」を防ぐために

家族や社会との関係が希薄で、他者との接触がほとんどない「社会的孤立」が大きな問題となっており、高齢単身世帯の増加で、今後さらに増える可能性があります。社会的孤立は自殺、孤立死、犯罪、薬物依存、ゴミ屋敷など様々な社会問題につながることから対策が必要です。身近な居場所づくりや小さな地域単位の見守りのネットワークを築く必要があります。

「五国の多彩な魅力が人を惹きつけ、 国内外との双方向の交流が活発に行われる社会」

例えば

- 五国の個性に磨きがかかり、国内外からの来訪者が増加
- 海外の企業と人材を呼び込み、外国人が生き生きと活動
- 外国人と共に働き、学び、暮らす社会に
- 兵庫の人材、企業が続々と海外に進出
- 世界中の国々と双方向の交流が深まる

(1) めざす姿

- 摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国の個性に磨きがかかり、子どもから大人まで、自らの地域に対する誇りと愛着が強まっています。地域の魅力が世界に発信され、国内外からの来訪者が増加し、兵庫を楽しんでいます。
- 海外の企業と人材を呼び込む地域になっています。留学生や実習生、県内に拠点を構える外国企業で働く人が各地で生き生きと活動し、生活しています。文化や宗教の違いを超えて、外国人と共に働き、学び、暮らす社会になっています。
- 外国人と一緒に働き、学び、暮らす経験を通じて、世界の広さや面白さに気付く県民が増えています。「ダイバーシティ」の大切さを理解し、実践する住民の力で地域社会が活気づいています。
- 多彩な知見や技術を持つ兵庫の人材、企業が続々と海外に進出しています。防災、医療、環境、農業などの得意分野で世界の課題解決に貢献しています。
- 世界に目を向ける教育が行われ、世界中を行き来する人が増えています。様々な国・地域と関係を持つ兵庫人が架け橋となり、国内はもちろんのこと、世界中の地域と双方向の交流が深まっています。

(2) 取組の方向性

- 地域資源の掘り起こしと編集、世界への発信
- 体験型ツーリズムのコンテンツの多様化と質の充実
- 地域ならではの街並み景観や自然景観の形成
- 外国人にも選ばれるまちづくり（就労環境や居住環境の向上、医療、教育その他生活支援サービスの多言語サポート体制の整備、日本語教育・母語教育の体制整備、学校教育での外国人子弟受入拡大等）
- 県内企業の海外進出支援
- 留学生の受入拡大と県内企業への就職促進
- 世界で活躍できる人材の育成と海外留学の拡大
- 防災、医療、環境、農業等の国際協力の拡大

活力を生む「ダイバーシティ」

社会の活力の源泉として「ダイバーシティ」への注目が集まっています。「多様性」という意味の言葉ですが、単に多様であるだけでなく、互いの違いを認め合い、受容することまで含めた言葉と捉える必要があります。異なる文化や価値観を持つ外国人と一緒に働き、暮らす「ダイバーシティ」に富んだ地域をつくる取組は、兵庫に新たな活力をもたらすでしょう。

「子どもの個性を伸ばす教育が営まれ、 大人になってからも学び続けられる社会」

例えば

- 一人ひとりの意思と個性が尊重される
- 子どもの個性を伸ばす学校教育・家庭教育
- 社会全体が学びの場として活かされる体験教育
- 多様な選択肢の中から自分にあった場で学べる
- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学べる

(1) めざす姿

- 思い込みを自省し、決めつけを自制できる大人が増え、一人ひとりの意思と個性がもっと尊重される社会になっています。答えのない時代を生きるのに必要な自発性や創造力を育むため、学校ではオンライン授業や個別学習のツールも活用しながら、対話型の教育が行われています。教員も親も一人ひとりの子どもの個性を伸ばすことに注力しています。
- 自然、文化、産業等の実物に触れる直接体験の機会が充実し、社会全体が学校のようになっています。デジタル技術で直接体験に近い形で多様な体験ができるようになり、経験の幅を広げています。
- 地域に多様な学びの選択肢があり、子どもたちは自分に合った場で安心して学ぶことができます。都市と多自然地域の子ども同士の交流や、各々が互いの学校で自由に学べる環境も整っています。
- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学ぶことができ、新たな知識や技能を身につけられる環境が整っています。年齢を問わず、新しいことを学び続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。
- 身近な地域にいろんな学びの場が広がっています。

誰もが先生、生徒になり、あらゆる場が学びの場となり、暮らしに役立つ知識や趣味に関わることまで多様なテーマの学びに誰もが参加しています。

(2) 取組の方向性

- オンライン教育の推進
- 一人ひとりにあわせた学習の推進
- 探求型の授業の実践
- 地域と学校の連携による体験教育の充実
- 学校以外の学びの機会の確保
- 都市と多自然地域の学校の交流促進
- 大人の学び直し（リカレント教育）の拡大
- 職業訓練施設等の能力開発施設の充実
- 地域におけるテーマ型の学びの場の充実

VUCA（ブーカ）時代を生き抜く人材

VUCA（V=Volatility：不安定、U=Uncertain：不確実、C=Complex：複雑、A=Ambiguous：曖昧）の時代には、与えられた問題を解決する力よりも、問題を発見する力が求められます。

注目される「心理的資本」

自己効力感や楽観主義、希望、困難を乗り越える力などに表れ、適切に経験を与えられれば伸ばせる資本であり、企業の競争優位を決定する資本として近年注目されています。

「アイデアを形にする実践が無数に行われ、 新しいチャレンジが次々と生まれる社会」

例えば

- 起業をめざす人材が国内外から集まる
- スモールビジネスに挑戦し、地域課題を解決
- 分厚い非営利活動、広がる寄付文化
- 何度でも挑戦できる環境が整う
- 自分なりの課題を持って、新しい活動に取り組む

(1) めざす姿

- いろいろな実験ができる地域の多様性と、伴走型の支援を受けられる環境の魅力で、起業をめざす人材が国内外から兵庫に集まっています。人が人を呼ぶ好循環が生まれ、地域の人々に応援されながら、多くの人が新しい課題に挑戦しています。
- 誰もが趣味の延長や身近な課題の解決で小さな起業に挑戦しています。カフェや地場産品を用いたアクセサリー製作、子育て支援など、地域の魅力向上や課題解決に貢献しています。
- 兵庫が非営利活動のメッカになっています。福祉や子育て、文化やスポーツ、環境保全など、幅広い分野でボランティアな活動が盛んに行われ、その中で多くの県民が役割を担い、楽しく活動しています。
- 様々な民間非営利団体の活動が活発になる中で、それらの活動を応援する寄付文化が広がっています。
- 失敗を貴重な経験として評価する社会になり、何度でも挑戦できる環境が整っています。失敗がペナルティになることがなく、再挑戦するときに資金面の支援などで不利になることはありません。
- 自ら価値をつくり出す起業家マインドを醸成する教

育が行われています。自分で作ったものを売ったり起業プロジェクトに参加したりと、子どもや若者にも多くの実践の機会が提供されています。

- 誰もがより良い生き方を追求しています。スポーツやアウトドア、歴史文化、食など自分なりの課題を持って、新しい暮らし方や学びに挑戦しています。

(2) 取組の方向性

- スタートアップの誘致、人材育成支援の充実
- 先輩起業家等による伴走型支援
- 起業や社会課題の解決を支援するファンドの創設
- 小さな起業を応援する支援制度の充実
- 民間非営利団体の活動支援
- 寄付文化の醸成
- 再挑戦を可能とする環境整備
- 起業家マインドを育てる教育の充実
- テーマ型コミュニティの形成
- 生涯学習拠点の充実

地方でのビジネスの広がり

地方の課題をビジネスアイデアの源とし、高齢者向けサービス、空き家・空き店舗の活用、農や自然などの体験型ツーリズムなど、様々なスモールビジネスが広がっています。

「文化が暮らしの中心にあり、新しい文化を創る 多彩な活動が展開されている社会」

例えば

- 文化的な活動の量と質を地域が競い合う時代に
- 多彩な表現活動が暮らしに彩りと刺激を与える
- 世界を魅了する新しい文化を創造
- 芸術文化を活かした多彩な教育プログラムを展開
- 先端的なアートやデザインに挑む人々が集まる

(1) めざす姿

- スポーツや食も含む幅広い意味での「文化」を暮らしの中心に据える県民が増えています。文化が地域の活力と豊かさに大きな影響を与え、文化的な活動の量と質を地域が競い合う時代になっています。
- 多くの人が生活の中で創作、発表、鑑賞を楽しんでいます。多彩な表現活動が県民の暮らしに彩りと刺激を与え、人々の感性や創造性を高めています。
- 地域に様々な芸術文化の拠点があり、個性的な創造集団が活躍しています。芸術文化の盛んな地域としてのブランドイメージが定着し、兵庫が世界のアーティストの憧れの場所となっています。
- 国内外の新たな担い手を巻き込みながら、培われてきた伝統と、新たな切り口を持った革新が融合し、世界を魅了する新しい文化が生み出されています。
- 演劇的手法を使ってコミュニケーション能力を高める授業など、演劇、音楽、美術等の芸術文化の知見を活かして子どもの主体性や表現力を養う多彩なプログラムが学校教育の中で展開されています。
- 芸術、映画、ゲーム、ファッションなどの体験価値を提供するクリエイティブ産業が県内に育っていま

す。先端的なアートやデザインに挑む人々が兵庫に集まり、新たな価値を創出しています。

(2) 取組の方向性

- 図書館やスポーツ施設等の充実
- 芸術文化活動の支援
- 芸術文化活動拠点の充実
- 芸術文化の世界への発信
- 地域の芸術文化拠点の充実
- 伝統文化を継承する担い手の育成・確保
- 学校教育でのアートやデザインの授業
- 演劇的手法を使った教育の推進
- アートやデザインを学べる機会の充実

芸術文化の4つの意義

- ①人に楽しさや感動、安らぎ、生きる喜びをもたらす。豊かな人間性、創造力、感性を育む。
- ②地域の特性や歴史の中で生まれ、地域の個性を形成する核となり、地域コミュニティの一体感や連帯感を醸成。
- ③民族や言語、宗教等の壁を越えて、世界の人々との対話・共生を進めることに貢献。人類共通の感動体験が、相互理解や共生の基盤となり、異質なものに対する寛容な心を醸成。
- ④新しい産業の振興や既存産業の高付加価値化。

「年齢、性別、障害の有無、国籍等に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会」

例えば

- 異なる文化や価値観への理解が深まる
- 年齢に関わらず、みんなが生き生きと活動
- 障害の有無に関わらず、すべての人が持てる力を発揮
- 性のあり方に関わらず、誰もが生きやすい社会に
- 誰もが快適に過ごせるユニバーサルなまちづくりが進展

(1) めざす姿

- 学校や地域で、多様な文化や価値観に触れる機会が増えています。異なる文化や価値観への理解が深まることで、他者を尊重し、意見の異なる相手の考え方を理解しようとする力が育まれています。
- 新たな仕事への挑戦やボランティア活動、趣味、スポーツなど、年齢に関わらず、活動領域が狭まることなく、みんなが生き生きと活動しています。
- 学校では、障害の有無に関わらず一緒に学ぶことで双方向の関係づくりが大切にされています。ICTの活用や、産業と福祉の連携などにより、すべての人が持てる力を発揮できる社会になっています。
- 「SOGIE」の考え方が定着し、性のあり方に関わらず生きやすい社会になっています。多様な生き方を支える制度や環境が整っています。
- 経済的な理由などで生きづらさを抱え、孤立しがちな人も、取り残されずに地域で支えられ、適切な支援を受ける中で、自分の役割を見出しています。
- ユニバーサルデザインが浸透し、施設や製品はみんなが利用しやすいものになり、誰も困難を抱えることなく快適に過ごせるまちづくりが進んでいます。

- 自治体は様々な主体が提供する公的なサービスのプラットフォームになり、住民は多様な選択肢の中から自分に合ったサービスを好きに選べます。
- 誰もが情報に簡単にアクセスできるようになり、いろいろな文化に触れたいときに触れることができ、学びたいときに学べる社会になっています。

(2) 取組の方向性

- 外国人との交流機会の充実
- 人権の尊重や偏見・差別の禁止規定の整備
- シニア起業支援
- スポーツなど健康づくり
- インクルーシブ教育の推進、産福連携の推進
- パートナーシップ・ファミリーシップ制度の推進
- 性の多様性に関する教育・啓発の実施
- ユニバーサルデザインの推進
- デジタル・デバイドの解消

SOGIE（そじー）とは？

人が持つ性の多様性を表す言葉。①SO（Sexual Orientation：性的指向＝好きになる性別）②GI（Gender Identity：性自認＝自分の性の認識）③GE（Gender Expression：性表現＝服装や髪型、一人称等の性別に係る表現）の3要素の略称で、すべての人にそれぞれのSOGIEがあります。

「地域に見守られながら安心して子育てができ、 多様な家族の形を受け入れる社会」

例えば

- ▶ 子どもの育成を社会全体で手厚く支援
- ▶ 子育て最優先の労働環境が整う
- ▶ 知り合いや地域の中で支え合う子育てが広がる
- ▶ 子どもたちが伸び伸びと遊べる多様な場がある
- ▶ 多様な家族と子育ての形が広がる

(1) めざす姿

- 子育て・教育を家族任せにせず、社会全体で手厚く支援しています。質・量ともに充実した保育・教育サービスがあり、何人子どもを産んでも安心して子どもを育てていける社会になっています。地域に子どもと子育て家庭を見守る意識があり、地域との緩やかなつながりの中で子育てができます。
- 結婚、出産、育児によりキャリアが途切れることはありません。継続して安定的に収入が得ることができ、経済的不安を抱えることなく、社会の中で活躍しながら、子育てをすることができます。
- 子育てを最優先できる労働環境が整っています。勤務形態や時間、場所などを自由に選べる働き方が広がり、ゆっくり子どもと向き合う時間を持てます。家族団らんの時間が増えています。
- 知り合い同士での助け合いや共同保育、多世代の交流があちこちで生まれています。地域の中で人々が支え合う関係があり、どんな家族も孤立することなく、安心して楽しく子育てができます。
- 子どもたちが伸び伸びと遊べる多様な場が充実しています。親同士が交流したり、地域の人たちが見守りながら、思い切り子どもたちが遊んでいます。

- 家族の形が多様化しています。家族形態の違いで不利益を受けることはありません。里親や特別養子縁組の制度が普及し、子どもたちは温かい家庭環境の中で安心して暮らしています。同性婚のカップルを含め誰もが安心して子どもを持ち、育てることができる環境が整っています。

(2) 取組の方向性

- 保育・教育サービスの充実
- 多世代が子育てを学ぶ機会の充実
- 子育てを最優先する雇用就業環境の整備
- 子育てサークルの育成やネットワークづくり
- 地域に開かれた気軽に集まれる場の充実
- 子どもが安心して遊べる施設や公園の充実
- 多様な家族の形を認める制度の充実

経済的安定が選択の分かれ道

子どもを持つかどうか、結婚するかどうか、その判断の分かれ目の一つに経済的安定という大きな問題があります。子どもにお金がかかりすぎることで、ますますその傾向が強まっています。子育てにおいて様々な外部サービスの活用が広がる中で、その負担をどう下げるかを社会全体で考える必要があります。

「充実した医療・福祉サービスを受けられ、 何歳まで生きても安心な社会」

例えば

- 生活習慣の改善が進み、健康寿命が延伸
- 先制医療、再生医療など兵庫が医療先進地に
- 24時間対応の充実した介護サービス
- 困ったときに手を差し伸べてくれる人が地域にいる
- 誰もが最期まで安心して暮らし続けられる

(1) めざす姿

- 健康な身体を保つ意識が高まり、毎日スポーツを楽しむ人が増えています。身体の機能を計測し、そのデータを生活の改善に活かす習慣が県民の間で定着し、平均寿命と共に健康寿命が伸びています。
- 神戸医療産業都市を中心に、兵庫が医療先進地になっています。個別化医療や先制医療が普及し、人工臓器等の再生医療も広がっています。所得格差などによる寿命の格差が生じない社会になっています。
- 在宅診療や遠隔診療を組み合わせ、住み慣れた地域で予防から最期を迎える時まで切れ目のない安心の医療サービスを受けることができます。
- 人生の最終段階の治療や過ごし方を自分の意思で選択できる環境が整い、本人の意思を尊重したケアが行われています。
- 医療、介護、障害者福祉の基本的サービスをすべての人に無償提供するベーシックサービスの制度が整い、何歳まで生きても安心な社会になっています。
- 24時間対応の在宅介護サービスに加え、地域に見守りのネットワークがあり、困ったときに手を差し伸べてくれる人がいます。生活の課題に総合的に対応

する社会福祉の仕組みが整い、誰もが住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすことができます。

- 外出が容易でない人も、ICTを使って人との交流や仕事ができ、社会に参加しています。介護ロボットなどの普及により介護者の負担が軽減しています。

(2) 取組の方向性

- 運動機能の向上、保険医療データの利活用の推進
- 健康医療産業の育成
- 遠隔診療と在宅診療の適切な組み合わせ
- 本人の意思を尊重した終末期医療の推進
- 在宅介護サービスの充実
- 地域の見守りネットワークの構築
- 介護分野の技術開発の促進

ベーシックサービスとは？

教育、医療、介護、障害者福祉の基本的サービスをすべての人に無償で提供する社会制度のことです。一定の現金をすべての人に給付するベーシックインカムより少ない財源で効果的な生活保障を行える方策として近年注目されています。ベーシックサービスと対をなすものとして、自治体がプラットフォームとなって各人の状況に応じた総合的な支援を行う「ソーシャルワーク」の重要性も説かれています。

「地域の課題に応える仕事が次々と生み出され、 地域の中でお金が循環する社会」

例えば

- **ものづくり産業が地域経済を牽引**
- **顔の見えるつながりから創造的な仕事生まれる**
- **地域の課題解決に挑むコミュニティビジネスが拡大**
- **地域で仕事を担い合う形が広がる**
- **持続可能性と収益性を両立する「循環経済」が根付く**

(1) めざす姿

- 地域に根付くものづくり産業が先端技術と伝統技術の融合で進化し、兵庫の中小企業が世界になくはない存在となり、地域経済を牽引しています。
- 各地の地場産業が高いデザイン性や物語性を武器に国内外でファンを獲得しています。事業が次代に継承され、地域の持続的な発展に貢献しています。
- 住み働く地域の中での顔の見えるリアルなつながりから創造的な仕事が次々と生み出され、住民に応援されながら小さなビジネスとして自立しています。
- 地域の内外を問わず志を共有する人々がチームを組み、地域の資源を活かして地域の課題解決に挑むコミュニティビジネスが盛んに行われています。
- 住民が出資して事業を行う組合を設立し、自ら働き手として事業に従事する「労働者協同組合（ワーカーズコープ）」や地域内でギグワーカー（独立業務請負人）が仕事をシェアして事業を営むスタイルなど、地域で仕事を担い合う形が広がっています。
- シェアリングエコノミー（個人が保有する資産やスキルを他人に利用させる取引）やサブスクリプション（定額使い放題のサービス購入形態）が定着し、地域内でモノを使い合う関係が広がっています。

- 廃棄物を出さずに資源を循環させる「サーキュラーエコノミー（循環経済）」が根付き、持続可能性と収益性を両立する地域経済に転換しています。

(2) 取組の方向性

- 中小企業のデジタル化の推進
- 中小企業と研究機関等との交流機会の充実
- 地域の企業を応援する「応援消費」の奨励
- 地元クリエイター等への積極的な発注
- コミュニティビジネスに取り組む人材の育成
- 労働者協同組合等による地域内就労の促進
- 持続可能性を志向する企業の誘致

大企業型から中小企業型へ

めざすのは、5,000人を雇用する大企業1社よりも10人の会社が500社集まって5,000人分の仕事を生む社会です。小さくても世界に飛躍する可能性のある企業を育てていくことが大切です。**サーキュラーエコノミーとは？**

捨てずに使い続ける、ゴミを出さない設計などを原則に、シェアリング、製品寿命の延長、リサイクル、素材としての再生などをそれぞれビジネスとして展開する経済の姿のことです。

「多様な気候風土を活かして多彩な食を生み出し、 地域に豊かな食が行き渡る社会」

例えば

- 兵庫の農の競争力が高まり、小規模な生産者も活躍
- 人と環境にやさしい農業が県土の隅々まで浸透
- フードテックによる超省力・高品質の生産体制が拡大
- 美しく豊かな海で持続可能な漁業を展開
- 必要とする人に食料が行き渡る

(1) めざす姿

- 農業への企業参入や、経営の法人化・大規模化、野菜・果樹等の産地化が進み、各地の土地の力が最大限に発揮され、農の競争力が高まっています。
- 世界に通用する製品のブランド化や加工品の開発、農家レストランの運営など6次産業化により、小規模でもきらりと光る生産者が活躍しています。
- 兵庫が環境創造型農業の先進地に発展し、人と環境にやさしい農業が県土の隅々まで浸透しています。地産地消も徹底されています。
- ロボットやICTが生産現場に行き渡り、持続的な農業を支えています。植物工場や、植物由来肉等の新食材の開発など「フードテック」の市場が広がり、超省力・高品質の食料生産体制が整っています。
- 専業の人、副業・兼業の人、繁忙期だけ手伝う人、土地を出す人、お金を出す人など、多様な関わり方により農業を支える形が広がっています。
- 畜産では、ICTの活用により生産性が向上し、高品質の畜産物が安定的に生産されています。但馬牛・神戸ビーフは世界の需要に応えています。
- 水産資源の適切な管理手法の確立と、獲る漁業から

育てる漁業への転換により、海の美しさと豊かさを両立しながら、持続可能な漁業が営まれています。

- 食料を無駄にしない意識が広まっています。規格外野菜の消費や、未利用食品を必要な人や施設につなぐフードバンクなどが広がり、食料が無駄に廃棄されることなく、必要とする人に行き渡っています。

(2) 取組の方向性

- 農地情報の基盤整備、農地の有効活用
- 法人化による競争力強化、スマート農業の推進
- ブランド化や6次産業化の推進
- 植物工場やフードテック企業の誘致・育成
- 環境創造型農業の推進、地産地消の推進
- 農業の担い手のマッチングの仕組みの構築
- 高品質な畜産物の生産力強化
- 適切な水産資源管理、先端養殖の推進
- フードバンク・フードドライブの推進

フードテックとは？

食糧不足、食の安全、省力化など「食」の課題をテクノロジーで解決する取組の総称。植物工場、陸上養殖など新たな生産形態や、植物由来肉、昆虫食など新食材の開発が代表的な取組。今後飛躍的な成長が期待される産業分野です。

「交流と安全の基盤が整い、 自ら危機に備える文化も根付く、強靱な社会」

例えば

- 環境負荷の低い高度な移動交通網
- 感染症にも迅速に対応する危機管理体制
- 長寿命化した強靱な社会基盤とICTを駆使した防災・減災
- 共助の文化が浸透し、力を合わせて危機に対処する地域に
- リスクに強い暮らしを志向する人が増加

(1) めざす姿

- 自動運転に適した道路網が県内を覆っています。環境負荷の低い多様な乗り物を自由に選択して快適に動き回れるMaaSの仕組みが整い、カーシェアも広く普及しています。自転車道の整備が進み、自転車を通勤・通学や観光で使う人が増えています。
- 災害や感染症に迅速に対応する総合的な危機管理体制が構築されています。災害からの復興策を事前に準備する回復力を高い社会になっています。
- 社会基盤の強靱化・長寿命化が一層進んでいます。災害予測システムや救助ロボットなどICTを活用した高度な防災・減災対策が社会に浸透しています。
- 人とのつながりが大切にされ、地域で助け合う共助の文化が浸透しています。感染症を含むあらゆる危機に力を合わせて対処する地域になっています。
- 過密な都市の暮らしを避ける人、ハザードマップをもとに居住地を選ぶ人など、災害や感染症のリスクに強い暮らしを志向する人が増えています。
- 南海トラフ地震や新たな感染症に対して被害を最小限に抑えるまちづくりが進み、ひとたび災害が発生した際は、ビルド・バック・ベターの考え方から産業、地域が創造的に復興しています。

(2) 取組の方向性

- 新しいモビリティ、シェアサービス等の社会実装
- 危機に総合的に対応する政府・自治体の体制構築
- 分散型社会への転換・産業のリスク耐性の強化
- インフラの長寿命化・集約適正化の計画的推進
- AI、ロボット、センサーなどICTの防災・減災活用
- 地域コミュニティ防災への参画促進・人材育成
- 災害時要援護者支援の充実
- リスクの見える化・県民への情報発信
- リスクを踏まえた新たなライフスタイルの推進

MaaS（マース）とは？

Mobility as a Serviceの略称。バス、電車、タクシー、ライドシェアなど、あらゆる公共交通を最適に組み合わせて検索・予約・決済等をシームレスに行うサービスのことです。

ビルド・バック・ベターとは？

阪神・淡路大震災、東日本大震災の経験から生まれた考え方で「前より良い復興」をめざし、災害後のインフラ・生活・経済・環境の復興策に未来の災害リスクの軽減策を統合し、社会の回復力を高める創造的復興のあり方のことです。

「自然との共生が日々の暮らしに浸透し、 地域と地球の持続可能性が高まる社会」

例えば

- 低炭素を志向するライフスタイルが定着
- エネルギー自立の地域が広がる
- 失われた自然や生態系を復活させる取組が進む
- 農林業の力で農村・森林が公益的機能を発揮
- 野生動物の生息地の再生により鳥獣害が解消

(1) めざす姿

- 大量に生産、消費、廃棄する時代は終わります。低炭素の移動手段と再生可能エネルギー由来の電力を使う住居が普及し、食生活など日々の暮らしでも低炭素を志向するライフスタイルが定着しています。
- 究極のクリーンエネルギーである水素の利用が広がっています。水素発電が実用化され、水素自動車も普及し、世界に先駆けて兵庫の地で水素を基幹エネルギーとする「水素社会」が実現しています。
- 地域内の再生可能エネルギーで電力を供給し、公的サービスの事業体としても活動する公社が増えています。地域でエネルギーを自給し、災害にも強い、スマートコミュニティが広がっています。
- 生態系サービスが県民の生活を支えていることへの理解が広がっています。コウノトリの野生復帰や尼崎21世紀の森づくりをモデルに、失われた自然や生態系を復活させる取組が進められています。
- 農村や森林が有する公益的機能への理解が深まり、生態系保全、防災、水源涵養、景観形成などの価値を生むものとして、農林業が大切にされています。
- 林業経営に適した森林がゾーニングされ、植林、保

育、伐採、利用のサイクルを回す持続可能な林業が営まれています。林業経営に適さない森林は共有財産として地域で保全・管理されるようになり、放置林や所有者不明林は解消しています。

- 針葉林の混交林化が進み、野生動物の生息域が再生されています。野生動物の生態の解明を通じた効果的な対策の推進により、鳥獣害は激減。森や草原の希少種が保全され、イヌワシが空を舞っています。

(2) 取組の方向性

- カーボンニュートラルな暮らし・経済活動への転換
- 太陽光をはじめ再生可能エネルギーの利用拡大
- 水素社会の実現に向けた取組の推進
- エネ・モノ・サービスが循環する地域産業構造の構築
- 自然環境と生態系の保全・再生
- 林業の成長産業化、森林の公有化・健全化
- 野生動物の生息地・個体数管理と被害管理の推進

「生態系サービス」とは

生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みを正しく評価するための概念です。①食料等の供給サービス、②気候等の調整サービス、③生息・生育地サービス、④景観等の文化的サービスの4つの側面があるとされています。

「自然の豊かさを活かした暮らしが 各地で営まれ、大都市集中が緩和した社会」

例えば

- 二地域・多拠点の暮らしが広がる
- 徹底したデジタル化で自治体運営が高度化
- 住民主導・人間中心のまちづくりが進展
- 魅力ある風景が地域への愛着を育む
- 山、川、海を楽しむライフスタイルが広がる

(1) めざす姿

- 社会のデジタル化に伴い、人口の大都市集中が緩和し、自然に近い場所で暮らす人が増えています。二地域居住、多拠点居住が広がり、人々の営みが自然環境や生物多様性の保全につながっています。副業で農林水産業や狩猟に携わる人が増えています。
- 持ち家にこだわらず、一生賃貸で暮らす人が増えています。住宅のセーフティネットが整い、どんな状況になっても住む場所に困ることはありません。
- 定住を前提としない住民票や住民税の制度が整い、公的なサービスも共通化し、住みたい場所を自由に選べます。選挙は電子投票になり、どこにいても自分が参加する自治体の選挙に投票できます。
- 徹底したデジタル化で自治体運営が高度化しています。意思決定過程は透明化され、多様な主体の集合知を活かす仕組みで施策の精度が高まっています。
- 自らの力で地域をより良くしようとする人々による協働のまちづくりが根付いています。住民主導のエリアマネジメント組織が各地に生まれ、人間中心にデザインされた街路や賑わいを生むオープンスペースなど魅力ある空間づくりが進んでいます。

- 風土、歴史、文化などに根差した地域らしい風景を守り育てる取組が広がっています。その地の風景が住民の誇りとなり、地域への愛着を育んでいます。
- 山、川、海へのアクセスが整い、兵庫の自然を楽しむ人が増えています。県全域を歩いて巡る道（フットパス）が整備され、人気を集めています。

(2) 取組の方向性

- 多拠点居住など分散型の新しいライフスタイル推進
- 住宅セーフティネットの整備（公営住宅の供給等）
- 自治体運営のデジタル化の推進
- 地域自治組織やまちづくり協議会の活性化
- 民間企業やクリエイターと地域プロジェクトの連携
- 住民参画を呼ぶプラットフォームの形成
- 地域の魅力を高める景観づくりへの支援
- アウトドアスポーツの普及、アクセスの改善

「都市化」から「開疎化」へ

大都市に人が集まり、それ以外の空間が置き去りにされる「都市化」がこれまでの潮流でしたが、コロナ禍により、密集、密閉をリスクとして避ける意識が生まれ、開放された「疎」な空間（豊かな自然環境や自然に囲まれた地方都市）に向かう人の流れが生まれています。

「兵庫発の環境エネルギー・健康医療産業などが地球の持続可能性を高めている社会」

例えば

- 人類の持続可能性を高める産業が集積
- 兵庫が水素をはじめ環境エネルギー産業の拠点に
- 資源循環、食料生産等の新分野にもものづくり産業が進出
- 科学技術基盤を活かした課題克服
- 企業のデジタル化とデータ活用による付加価値創出

(1) めざす姿

- 人類の持続可能性を高める産業の振興に力を入れる地域として兵庫の名が世界に知られています。環境エネルギー、健康医療、ロボット、新素材、フードテック、海洋開発、防災などを手掛ける企業が集積し、地域の新しい基幹産業となっています。
- 「水素社会」を支える水素関連産業が兵庫に集積しています。臨海部に水素の受入・供給基地が立地してプラントの製造や技術開発を行う企業が集まり、新たな事業者の参入も進んでいます。
- ものづくり産業が先端科学と融合して進化し、資源循環や食料生産等の新しい分野に進出しています。
- 県内に立地する世界最高水準の科学技術基盤と大学や研究機関、企業との連携により人類の課題を克服する研究成果が次々と生み出されています。新技術の実装に向け、様々な社会実験が県内で行われ、県民も試行錯誤のプロセスを楽しんでいます。
- あらゆる企業が高度にデジタル化し、データ活用から新たな付加価値を生み出しています。公的サービスへの企業参入も進み、公民連携で利用者の満足度の高いサービスが効率的に提供されています。

(2) 取組の方向性

- 「水素社会」の実現に向けた取組の推進（水素利用の拡大、関連企業・研究開発拠点の誘致、技術開発支援、水素受入・供給基地の立地促進）
- 神戸医療産業都市を中心とした健康医療産業の振興
- 環境エネルギーなど重点領域の設定と戦略的な企業誘致・研究開発の展開
- 県内の科学技術基盤を活用した研究開発の促進
- 社会実験などの新しい取組と課題に挑戦する人材を呼び込む公民連携プラットフォームの形成
- 中小企業のデジタル化と新分野進出への支援
- 公的サービスへの企業の参入促進

SDGsにおける世界の産業政策の方向性

SDGs9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

- ① 持続可能かつ強靱で包摂的なインフラの開発
- ② 包摂的かつ持続可能な産業化の促進
- ③ 金融サービス及び市場へのアクセスの拡大
- ④ 持続可能性のために全産業とインフラの改善
- ⑤ 研究の促進と産業技術の向上
- ⑥ 途上国のための持続可能なインフラ開発促進
- ⑦ 国内における技術開発と産業の多様化の支援
- ⑧ 情報通信技術への普遍的なアクセス

4つの基本姿勢

- 大きな**連携**の輪をつくる
- **試行錯誤**のプロセスを楽しむ
- 地球規模で考え、**足元**から行動する
- バーチャルを使いこなし、**リアル**を大切にする

□ 大きな**連携**の輪をつくる

ビジョンを実現するためには、社会を構成する多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む「連携」が欠かせません。

ビジョンに共感し、共に行動する「連携」の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。そのためには、ビジョンを具体化していくプロセスを透明化し、広く情報を共有する必要があります。つながりから新たな可能性を生むためにも、人も物も情報も資金も、抱え込むのではなく広く共有し、得られた成果もみんなで共有する姿勢が求められます。

□ **試行錯誤**のプロセスを楽しむ

社会の課題は複雑化しており、模範となるモデルを探して追随することは難しくなっています。ビジョンの実現に向けては、試行錯誤を繰り返しながら、自分で道を切り拓いていく覚悟が求められます。

大切なのは、実験的な試みを楽しむ姿勢です。めざす姿に近づくために何が必要かを一人ひとりが考え、学習と実践のサイクルをテンポ良く回していく必要があります。また、地域には、そうしていろいろなことにチャレンジする人を歓迎する姿勢が求められます。

失敗に寛容で、失敗から学び、再チャレンジする人を応援する風土を根付かせていく必要があります。

□ 地球規模で考え、**足元**から行動する

地域を変えるためには、一人ひとりの県民が足元の地域の課題に目を向け、身の回りから解決に向けた行動を起こし、地道に取り組む必要があります。

一方で、気候変動、感染症など世界共通の課題がクローズアップされています。インターネットで世界が一つにつながり、世界の動きが直接地域に影響する時代です。これまで以上に世界で起こっていることに目を向け、世界と地域双方の視点を持って、自分に何ができるかを考える姿勢が求められます。

□ **バーチャル**を使いこなし、**リアル**を大切にする

情報通信技術を駆使して生活をより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーションを進め、バーチャル空間を最大限に活用して自由度の高い社会をつくっていく必要があります。

しかし、いくら情報通信技術を使いこなして便利になったとしても、大切なのは人と人とのリアルな交流であり、人の温もりです。リアルとバーチャルのバランスを考える姿勢が求められます。

2 動かす仕組み

実行プログラムの策定

- 地域創生戦略をビジョンの実施計画と位置づけ

先導プロジェクトの推進

- 全県ビジョン実現に向けた重点プロジェクトを推進
- 地域ビジョン実現に向けたプロジェクト企画委員会を各地に設置

対話と学びの場づくり

- 県民が地域の未来を語り合い、考える場づくりを各地で展開

推進状況の見える化

- 推進状況を毎年度公表、状況に応じた見直し等に柔軟に対応

(1) 実行プログラムの策定

①戦略の策定

- 県が定める「地域創生戦略」をビジョンの実施計画と位置づけ、ビジョンの実現に向けた県の主要な取組をビジョンの体系に沿って提示します。

②分野別計画との連携

- 計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、ビジョンのもとに、分野別計画を推進します。

(2) 先導プロジェクトの推進

①重点プロジェクトの推進

- 全県ビジョンの実現に向けて県として先導的に取り組む重点プロジェクトの仕組みを整えます。
- 関係する主体が参画するプロジェクトチームを設置するなど「公民連携」を基本にプロジェクトの推進を図ります。

②地域プロジェクトの推進

- 地域ビジョンの実現に向けた取組を進める仕掛けとして、公民連携による地域プロジェクトを企画する委員会を各地域に設置します。
- この委員会は、地域ならではのユニークな取組を生む場となるよう地域の自主性に委ねて運営します。

(3) 対話と学びの場づくり

①対話の場づくり

- 今後も未来を考え続けることが大切です。県民が地域の未来を語り合う場を様々な形で設定します。
- 次代を担う若者と未来を語り合うため、大学等への出前講座など若者との意見交換の場を設定します。

②学びの場づくり

- 多様な媒体を用いてビジョンの実現に向けた取組の情報を分かりやすい形で発信します。
- 住民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な学びの場づくりを支援します。
- 学びの場から住民主体の新しい取組が立ち上がることを促し、市町と歩調を合わせて支援します。

(4) 推進状況の見える化

①毎年度の点検評価

- 推進状況を毎年度点検評価し、その結果を取りまとめて公表します。

②柔軟な対応

- 社会情勢の変化など状況に応じたビジョンや戦略の見直し等に柔軟に対応します。

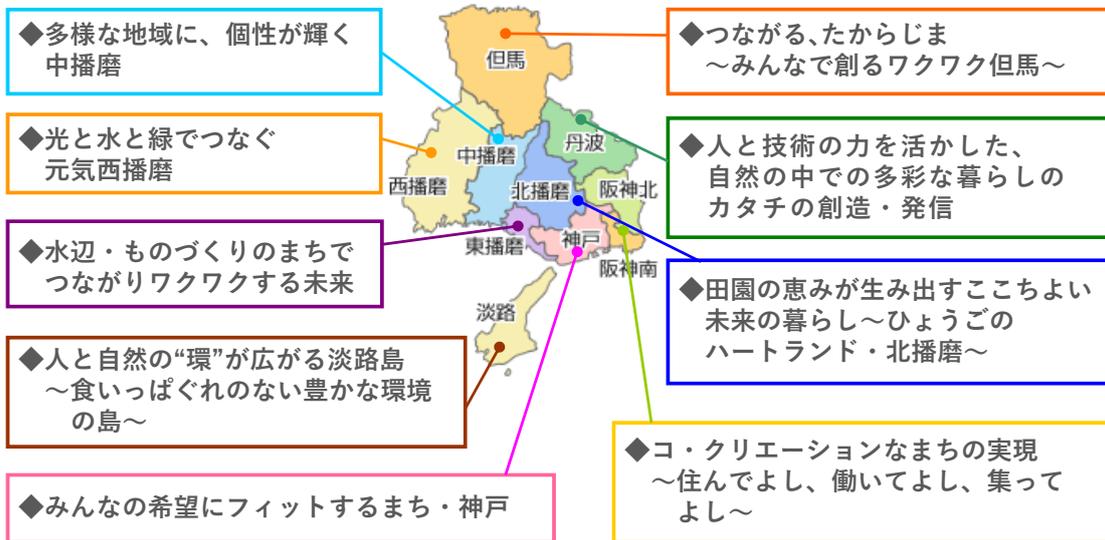
《参考》 9つの地域ビジョン

多様な地域からなる兵庫の強みをさらに伸ばすため、9つの地域ビジョンを同時策定

全県と地域の二層構造のビジョン



9つの地域のめざす姿



《地域の個性を伸ばす9つの地域ビジョン》

兵庫の強みは地域の多様性であり、この強みを伸ばすために、全県ビジョンと一体的に地域ビジョンを策定します。地域ビジョンでは、地域の個性を際立たせる観点から、全県ビジョンの「めざす姿」を重点化、特色化し、地域ならではの将来像を描いています。

<神戸地域>

都市と自然の豊かな空間に、暮らす、働く、楽しむ、どれをとっても多様な選択肢がある神戸。希望に寄り添い、包み込むまち、希望を叶える地域をめざします。

<阪神地域>

多様な人や文化を受入れ、愛着や誇りを育んできた阪神地域。人々が重層的につながり、豊かな暮らしと活力を創造するコ・クリエーションな地域をめざします。

<東播磨地域>

営みの源となる水辺と活力を生み出すものづくりのまちで、まちや歴史、文化、自然、産業と、人とのつながりを深め、心躍る新たな未来を創り出します。

<北播磨地域>

県下有数の水田農業地域である北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、こち

よい未来の暮らしを実現します。

<中播磨地域>

世界に誇る歴史、祭りなどの文化、食や産業など魅力あふれる多様な「地域」が集う中播磨で、個性豊かな「人」が自分らしく活躍できる地域をめざします。

<西播磨地域>

豊かな歴史や自然の景観、受継がれる産業、温かい人のつながりなど西播磨の魅力をすみずみまでネットワークで結んで、地域が元気に躍動することをめざします。

<但馬地域>

豊かな自然、歴史、芸術文化、多彩な食など但馬らしい魅力を生かしながら、多様な人がつながり合い、挑戦できる、誰もがワクワクする地域を創ります。

<丹波地域>

「丹波の森」は、内外の様々な人たちと結びつきながら、「未来社会の暮らしの実験場、共創空間」となり、新たな価値を生み出していきます。

<淡路地域>

人と自然の良質な関係を築き、多様な資源・魅力を活かすことによって、誰もが安心して暮らし続けられる“食いっぱぐれない島”をめざします。